

第4回 自転車安全利用対策懇談会

市川市内の自転車事故の状況

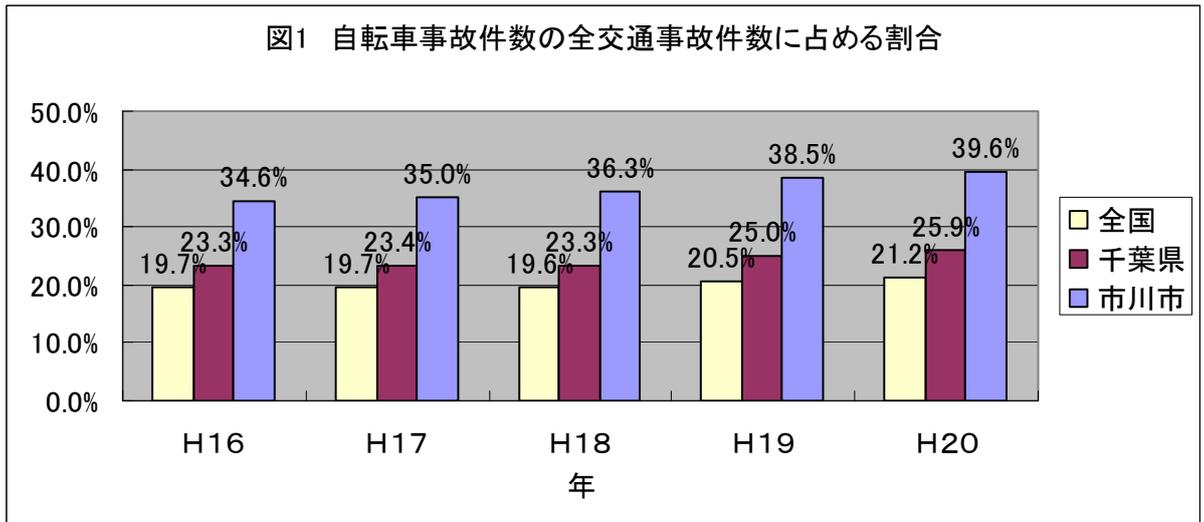
1 市川市内の自転車事故多発箇所

- ・市川市内では、JR本八幡駅、市川駅、東西線行徳駅、南行徳駅の各駅周辺で自転車事故が多発しています。
- ・その中でも、特にJR本八幡駅周辺、市川駅周辺の交差点およびその付近で自転車の関係する事故が多く発生しています。

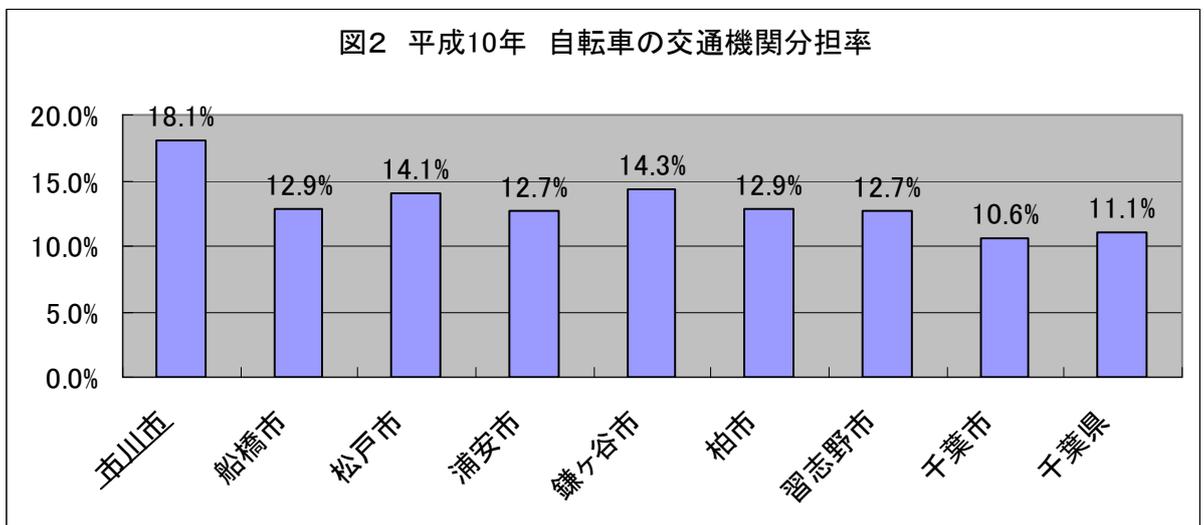
2 市川市の自転車の関係する事故の全交通事故件数に占める割合が高い理由

(図1 参照)

- ・市川市の地形が比較的平坦であるため自転車が利用しやすい環境にあること。
- ・自転車の交通機関分担率が千葉県や近隣市と比べて高いこと。(図2 参照)
- ・市川駅・本八幡駅周辺の交通渋滞に伴いバスの定時性の確保が困難であるため、代替交通手段である自転車の利用が多いこと。
- ・市川警察署管内の道路整備が十分でないこと。



データ：警察庁ホームページ、千葉県警察本部発行の交通白書より引用

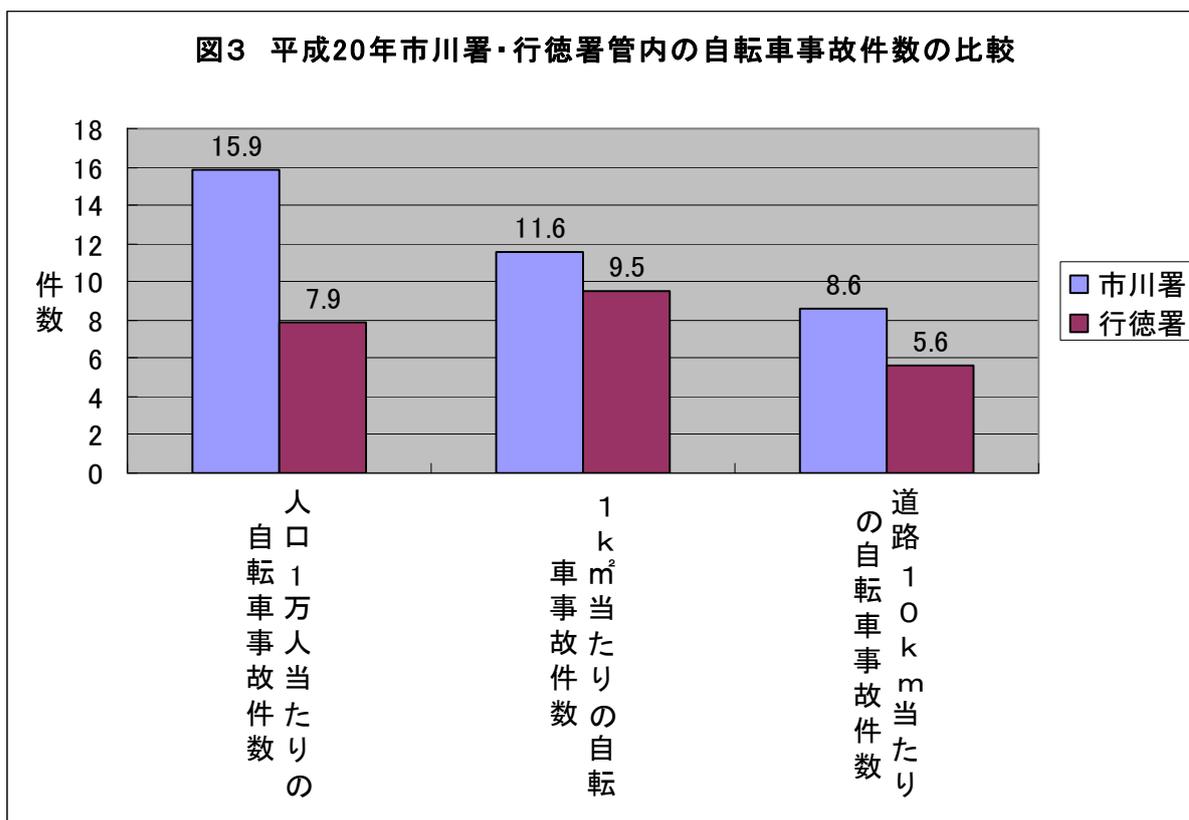


データ：平成10年東京都市圏パーソントリップ調査、目的種類別代表交通手段別OD表を用いて各市の自転車交通機関分担率を集計

3 市川警察署管内と行徳警察署管内との比較

①市川署管内の方が自転車事故件数が多く発生（図3参照）

- ・人口比で 2.0 倍
- ・面積比で 1.2 倍
- ・道路延長比で 1.5 倍



事故データ：千葉県警察本部発行の交通白書より引用

②市川警察署管内の方が自転車事故件数が多い理由

- ・市川署管内は、道路整備が遅れており、道路幅員が狭く、見通しのきかない道路が多いこと。
(行徳署管内は、土地区画整理事業を行ったエリアが多く道路整備が進んでいます。)
- ・その対策としては、道路整備（自転車の走行空間の整備）が必要。

③行徳署管内の方が重傷事故となる割合が2.4倍多い。

自転車事故件数のうち重傷事故件数の割合は、

- ・市川署 9.7% (死亡事故1件含む)
- ・行徳署 23.7% (死亡事故0件)

※「重傷」とは、交通事故によって負傷し、30日以上の治療を要する場合をいう。

④行徳署管内の方が重傷事故となる割合が多い理由

- ・行徳署管内は道路整備が進んでおり、比較の見通しが良く、広幅員の道路が多いことから、車も自転車も速度を出しやすいこと。
- ・そのため、事故が発生すると、重傷事故につながりやすいものと考えられます。
- ・その対策としては、交通ルールの普及・マナー向上が必要。

4 自転車安全利用対策

以上のことから、自転車の安全利用を推進するためには、

- ・自転車の走行空間の整備も重要ですが、
- ・自転車の交通ルールマナー向上のための交通安全教育・啓発
- ・自転車の点検整備・保険加入の促進
- ・駐輪場の整備 (買い物客用も含む) 等が必要です。